



実力医にかかるコツ 謝礼は必要か...

本誌では10月28日号から3回シリーズで、心臓外科トップ病院の手術数とその成績を公表してきた。これに対し、読者から「患者が執刀医を選べるのか」「謝礼を渡さない」と有名な先生には手術してもらえないのでは？」という疑問が寄せられた。今回は、番外編としてそんな疑問に答えつつ、上手な外科医のかかり方を考えた。

「すでに、冠動脈バイパス手術でしか治らない状態で、奥内には、うちより手術実績のある病院が2カ所あります。手術を受けるならこの病院にするかよくお考えになってください」
 神奈川県に住む46歳の男性は今年6月、ある大学病院の循環器内科でそう宣告された。3年前から狭心症の治療を受けていたが、その大学病院の心臓外科があまりよくないことは分かっていた。
 「その内科の先生が、手術実績のあるほかの病院の名前を挙げてくれなかつたら、自分で手術の評判の良い病院に行ってみるつもりでした。でも、内科の先生の方からそう言ってくれたので、近い方の病院に紹介状を書いてもらいました」
 糖尿病の持病があり、心臓の働きもかなり悪い状態になっていた。8月に手術を受け、そのあと肺炎になって危機的な状況だったというが、いまは仕事に復帰している。
 心臓病の場合、大人ならまずは心臓病専門の循環器内科医、子供なら小児科医の診断を受ける。手術が必要と言われたとき、どの病院で手術を受けるか選ぶわけだが、この男性のようなケースがある半面
 「手術は同じ病院の心臓外科医にしか頼みません」（都内の循環器内科医）
 という内科医がいるのもまた事実。系列病院だから、循環器内科医の大学の先輩だからなどという個人的な理由で、紹介先の外科医を選ぶ傾向もまだある。
 「腕の良い外科医に手術をしてもらうためには、まず内科医を選ぶことです。心臓病のあらゆる治療法を知っていて、個々の外科医の実力まで教えてくれ、どこへでも紹介状を書いてあげますというスタンスの人を選ぶとよいでしょう」
 岩手医科大学附属循環器医療センター長の川淵浩平教授は、こう強調する。
 また、大和成和病院の南潤明心臓病センター長は、「先生ならどの外科医の手術を受けますか、と内科医に聞いてみたらよいと思います」と提案する。
 もちろん、手術を受けた外科医を決めている場合には、直接、外来に行ったり、電話や電子メールで連絡を取ってもまったく問題ない。年間手術数が多い外

- 手術前に最低限聞いておきたい
三つのポイント
- ① 誰が執刀するのか
 - ② 執刀医がその手術を今まで、また年間何例こなしているか
 - ③ 執刀医のチームの手術死亡率と手術によって脳梗塞、感染症などになった人数

「た医師の手術を受けたいと、後悔しかねないのだ。そもそも、『手術が必要』と診断されても、本当に手術が必要なのか、という問題がある。特に、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患の治療の場合、どういったところまで内科的なカテーテル治療でやり、どこから手術になるのか、その基準は病院によってかなり違う。また、どの程度重症なケースまで手術するかについても、病院によって相当差がある。」

「セカンド・オピニオン（もう一人の医師の意見）を聞いて、その医師も同じことを言えば、ほぼ間違いはないでしょう。意見が違えば3番目の医師のところへ行けばいいわけです」
 鹿児島大学の坂田隆造教授は言う。では、セカンド・オピニオンは具体的にどうやって取ったらよいのか。
 「はじめにかかった内科医に、セカンド・オピニオンのための紹介状を書いてもらうことです。その内容としては、虚血性心疾患だったからカテーテル検査（冠状動脈造影検査、弁膜症だったから心エコー、大動脈縮だ

「セカンド・オピニオン（もう一人の医師の意見）を聞いて、その医師も同じことを言えば、ほぼ間違いはないでしょう。意見が違えば3番目の医師のところへ行けばいいわけです」
 本人が入院している時には、家族が紹介状を持って聞きに行ってもよい。
 それで最終的に手術を受けるかどうか決まったら、気にならぬのは謝礼のこと。最近では、謝礼を禁止しているところもあるが、本音のところどうなのか。
 「お金だから、それはもらったらうれしい。だけど、最近では1カ月に数人が2万円か3万円くれる程度です

「人間的に合う合わないもありませんから、ある程度外科医を決めたら、まず一度会ってみることで、車を買うとき見積書を出してもらうのと同じで、直接会って、その医師の手術数や治療成績まできちんと聞くとよいでしょう」
 豊橋ハートセンターの大川秀嗣院長は、こうアドバイスする。右の表に挙げた「三つのポイント」を参考に、納得いくまで説明を聞いていただきたい。

「正直言って、謝礼を生活費の一部としてあてにしていた時期もありました。もらったのは1万円から100万円。でも手術の時は、その病気を最善の方法で治そうということしか考えないわけで、お金なんて事前にもらったら守りに入ってしまっている治療ができませんですよ。事前には絶対にもらわないようにしています」（首都圏の大学病院の外科医）
 聞いてみると、地方では謝礼自体少ないが、都市部では、謝礼が慣習化しているところもある。中には、いくら包むかまで病院のスタッフに言われるところもあるそうだが、
 「そんなことで執刀医や治療内容が変わるような病院は、やめたほうがよい」というのが、トップレベルの外科医の一致した見解だ。治療費は医療保険から出るものも含めてきちんと払っているのだから、無理して謝礼を払う必要などまったくないわけだ。
 いずれにしても、患者が内科医に「お任せ」で執刀医まで選んでもらう時代ではないのは確か。考えてみれば、家や車など高額なものを買う時には相当考慮するのに、一番大事な命がかかっている心臓手術で、執刀医の手術成績などを聞かないというのはおかしい話。一刻の猶予もない場合は別として、心臓外科医をよく選んで、納得のいく形で手術を受けたいものだ。
 ライター・福島安紀

ただ、特に大学病院などでは、必ずしも、お目当ての医師を指名できるとは限らない。心臓手術としてはリスクが少ないようなパターンの手術で、心臓以外に病気のない人は、若い医師の担当になるということもありえる。手術を受ける前には、誰が実際に執刀するのか確かめ、「この先生なら命を任せてもよい」と思え